

ANNUAL REPORT

令和 5(2023) 年度 年次報告書



社会福祉法人 武蔵野会
千代田区立障害者福祉センター えみふる



人と人、 地域をつなげる

千代田区立障害者福祉センターえみふるの「えみふる」とは、「笑みがあふれる」という意味です。利用されている方や地域の皆様が、自分らしく充実した毎日を送れるように様々な支援を提供しています。

本事業所は、平成 22（2010）年に社会福祉法人武蔵野会が指定管理者として運営を開始し、令和 2（2020）年からの新たな 10 年において「人と人、地域をつなげる『絆』を創り出す」ことをミッションに掲げました。私たちが目指す地域社会の実現に向け、10 年間の事業計画と目標（ロードマップ）にまとめ、その成果をアニュアルレポート（年次報告書）としてお伝えします。

アニュアルレポート（年次報告書）とは、本来経営的な数字を報告書としてまとめたものですが、私たちはロードマップに基づき活動してきた成果や取り組みの進捗を、数字や写真などより具体的な形で伝えることで、皆様と築いてきた関係を形にすることを大切にしています。本レポートからえみふるをより深く知っていただき「応援したい!」と思っていただけるよう想いを込めてお伝えしていきます。

自分を愛するように あなたの隣人を愛せよ

社会福祉法人武蔵野会 基本理念

施設長あいさつ

昨年度は、2024 年元旦に能登半島地震が発生したことで、災害の生む悲しみを目の当たりにし、改めて地域、人、社会とのつながりの大切さを実感しました。

えみふるは、福祉避難所の機能も有しています。万が一、被災した時にパニックとならないよう、月々の避難訓練など平常時からの備え、体制整備を進めています。

えみふるも形成期に入り、交流人口目標値 25,000 人という新たなステージに入りました。また、新型コロナウイルス感染症も 5 類へ移行し、制限の緩和も受けて、安全に配慮しつつ行事等も復活・拡大して、より多くの方に利用していただけるよう努めました。

さらには、地域でのコミュニティづくりとして、「ちよだんごカフェ」オープンまでの準備を着々と進めてきました。障がいの有無に関わらず、その人らしさが尊重され、あるがままに受け入れられるコミュニティとなるよう、地域の皆様と共に歩んでいきたいと考えています。

えみふるのミッションでもある「人と人、人と地域をつなげる『絆』を創り出す」ことを実現し、社会的役割を果たしてまいります。

的場 康芳



「絆」を創り出す

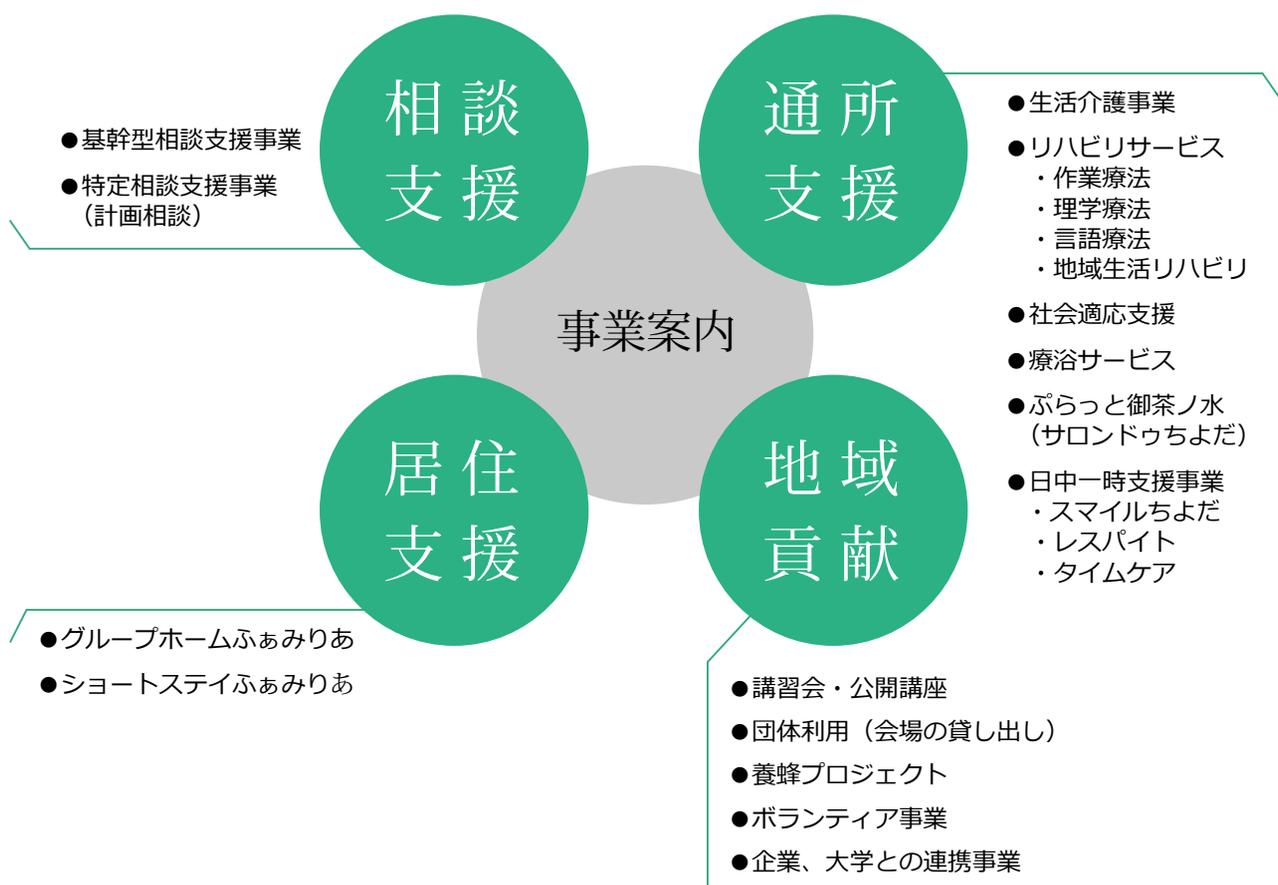
千代田区立障害者福祉センター えみふる

千代田区立障害者福祉センターえみふるは、知的・身体・精神の3障がいを対象とした福祉サービスを一元化した施設として、センターでの活動を通じて障がいを持った方が地域での自立生活を充実できるよう支援しています。

また、地域の皆様がえみふるに集い、様々な活動を通して交流する地域拠点としての活動も展開しています。

設立年月日 平成 22 年 1 月 1 日

職員数 47 名 (有期雇用職員含む)



えみふるロードマップと

17 の項目

導入期 令和2(2020)年4月
～
令和5(2023)年3月

形成期

令和5(2023)年4月
～
令和8(2026)年3月

完成期 到達点

令和8(2026)年4月
～
令和11(2029)年3月

令和2(2020)年からの10年がスタートしたことを機に、私たちは「人と人、地域をつなげる『絆』を創り出す」ことをミッションに掲げました。

そのミッション達成のために10年間の事業計画と目標というロードマップを作成して、10年後の到達点を描き、日々の支援、進行運営に取り組んでいます。

ロードマップは10年をおおよそ3年ごとの3期に分け、定期的に計画を見直し、実態に即した計画にしています。



10年後の到達点

障がいのあるなしに関わらず、地域で安心して暮らし続けられる千代田区の実現を目指す。

形成期の目標

- 年間の交流人口 25,000 人を達成する



10年後の到達点

ショートステイとレスパイト、利用者の用途に合わせたサービスを提供し、安定した地域生活を支える。区内の放課後等デイが利用出来ない時の受け皿となる。障がい児から障がい者へのスムーズなサービス移行の環境を整え、継続的な支援につなげる。

形成期の目標

- ショートステイ、レスパイト、タイムケア機能強化を図る



10年後の到達点

世代交代と同時に講習会内容の見直しを図り、出席率 70%を達成する。障がいにとらわれず、在住・在勤・在学者を対象とした事業を展開することにより、えみふるでの「小さな共生社会」の実現を目指す。

形成期の目標

- 講習会充足率 50%を達成する
- 利用者数 16,000 人を達成する
- 障がいにとられないプログラムの強化、事業展開を図る



10年後の到達点

利用者のターゲットを明確化する。入れ替わり期間を短くし、1年以上空きのある状態をゼロにする。建設予定(旧保健所跡地)のグループホームとの差別化を図る。

形成期の目標

- 利用率を 100%にする



10年後の到達点

利用者の方が無理なく参加できる講習会、公開講座、パソコンサロン等を開講し、人が集まれる憩いの場や居場所としてのえみふる内の役割を果たす。

形成期の目標

- 精神障がいを持つ人、団体が利用できるような場所づくりを行う



10年後の到達点

ショートステイとレスパイト、利用者の用途に合わせたサービスを提供し、利用者の安定した地域生活を支える。他区の受け入れを行い、利用率 100%を達成する。

形成期の目標

- 利用率を 100%にする



10年後の到達点

医療ケア対象者及び他区からの受け入れを可能とし、利用率70%を達成する。他事業所との差別化を図る。他事業所利用者の高齢化に伴う受け入れ及び新規利用者（転入者）の受け入れを行う。

形成期の目標

- 利用率を60%にする
- 医療ケア対象者の受け入れ準備を進める



10年後の到達点

地域生活支援拠点として相談体制の中心的存在となる(コーディネーター機能)。24時間365日対応可能な地域体制を構築する。子どもからシニアまで、ワンストップ体制を構築する。横のつながりが生まれる相談支援体制を整備する。

形成期の目標

- 基幹型相談件数500件を達成する
- 地域包括支援センターと連携を強化する
- 障がい児者相談支援事業所と連携を強化する
- 千代田区生活支援拠点として面的整備・調整をする



10年後の到達点

新規利用者を受け入れる体制(仕組み)づくり

形成期の目標

- 180件の相談に対応する



10年後の到達点

商店街の空き店舗を使用し、コミュニティをつくり、商店街の活性化につなげる。来てもらうサービスから出向くサービスに移行していく。地域の活性化に貢献する。

形成期の目標

- 地域ネットワークを強化する
- 養蜂の商品化を進める
- 地域の社会資源を開拓する
- 社会福祉協議会との連携強化を図る
- 地域でのイベントを年2回開催する
- ちよだんごカフェの運営



10年後の到達点

企業とだからこそできる地域及び社会貢献を展開し、えみふるの千代田区内での地位を確立する。

形成期の目標

- 連携企業数を6社にする



10年後の到達点

大学とだからこそできる地域及び社会貢献を展開し、えみふるの千代田区内での地位を確立する。

形成期の目標

- 連携校数を2校にする



10年後の到達点

障がい者スポーツを通じた、絆社会を実現する。

形成期の目標

- 障がい者スポーツの促進を図る
- ちよだんごカフェでの運営



10年後の到達点

施設での人材確保システムを構築し、「断らない福祉」を実現する。

形成期の目標

- 人材育成の方法と安定的サービスの構築
- 施設の中核人材を育成する
- 実習生を年間30人(のべ200人)を受け入れる
- 発達障がい者・強度行動障がい者・医療的ケアの専門性の獲得及び専門職の採用各1名を達成する
- 小中学校、高等学校との交流会を実施する



10年後の到達点

途切れないボランティアシステムを構築する。ボランティアの質の向上を図る。将来の職員、ボランティア人材を育成する。

形成期の目標

- ボランティアを年間300人受け入れる
- 大学・若者との交流やボランティアを通じて福祉教育を行い人材育成を図る



10年後の到達点

アートを通じた地域との繋がりの構築。利用者からアーティストの誕生。

形成期の目標

- 千代田区文化芸術プランと連携し、アートへ挑戦する
- 障がい者アートの発信として、アーティストを選考する
- JSP、リアン文京との地区連携強化を図る
- 障がい者雇用を促進する



10年後の到達点

災害時の区内でのえみふるの役割を明確にする。地域コミュニティでの受け入れ体制を構築する。横の繋がりを意識した災害に負けない地域コミュニティを構築する。

形成期の目標

- 「ちよだモデルネットワーク(略称:CMN)」への参加
- 地域企業とのネットワークの構築
- 被災者の受け入れを想定した災害訓練の実施(年1回)



ロードマップ

17

項目の現在地点

令和5（2023）年度の事業を17項目の観点から総括・分析し、数字と取り組んだ具体的な内容にまとめました。さらに、10年後の目標達成に向けて、次年度の重点的な取り組みや目標を合わせてお伝えします。

それぞれの項目の数字は、前年度と比較したものはその増減を示し、新しく取り組んだものや、新たに成果としてお伝えしたい数字には「NEW」のアイコンがついています。

ロードマップからみた取り組みや数字の達成度は、「笑みがあふれる」という名前の由来にちなみ、一目見てわかる表情のアイコンは達成に近づくほど「笑顔」で表現しました。アイコンは、利用者の方と職員が指で描いたアート作品を基に作成しました。

達成度アイコン一覧



目標を達成した



維持している



未達成だった



新規事業
新たに伝えたい成果

1 交流人口



ご家族と共に楽しめる宿泊旅行を実施

コロナ禍にあっても、安全を最優先しながらそれぞれの事業を続けてきたことで、認知度はあがってきていました。今年度は制限が解除されつつある中で、行事の人出も戻ってきており、どの事業でも参加者は上昇しました。コロナ以降実施できていなかった宿泊バス旅行も、宿泊先の確保を早期に進められたことで複数人が泊まれる部屋が取れて、参加は部屋単位で募集できました。

それにより、いつもは参加を見送ってきた利用者の方もご家族と参加できるため、応募して下さるなどニーズに応えた実施ができました。

交流人口
22,422名

前年比
1,952名増



次年度に向けて

さらなる人の移動も見込まれるため、各種サービスや事業でどのようなことを行っているかを継続的かつ魅力的に伝え、関心を寄せてもらうことを進めていきます。

それには職員自身が質の高い支援を提供し、利用者の方との関わりを広げていくことで、信頼関係を構築していくことが必要です。「ちよだんごカフェ」という新たな拠点もできたことで、麴町方面の方との関係構築もより一層力を入れていきます。





多くの方に地域活動を、 納涼祭も規模を拡大

行事や公開講座を多くの方に届けるため、新企画の創出、参加しやすい工夫、広報の見直しの3点に取り組みました。特に広報は、中規模のイベントまで広げて『広報千代田』に掲載したり、区内全域の掲示板で周知したりするなど、目にする機会を増やす発信をしました。

ネイルサロンやマッサージなど大人気講座は、定員を超える申込があり抽選を行うほどの盛況ぶりでした。納涼祭もワンフロアでの開催から3階分のフロアを使用したことで企画が充実し、大規模な開催により、昨年の倍以上の方に参加いただけました。

利用者数
14,705名

前年比
5,481名増



次年度に向けて

2025年にデフリンピックが東京で開催されます。そのため、選手たちの活躍を楽しみに、まずは知ってもらえる情報発信に力を入れます。大会の委員会はWeb上で啓発のための動画も公開しており、それらを用いてえみふるでもお伝えしていく企画を2024年夏に実施を予定しています。

また、ちよだんごカフェはボッチャも行えるスペースがあり、スポーツイベントで親しんでもらうことも考えています。



当事者団体の設立と育成から、 その方が安心できる暮らしへ

今年度は、利用者の方をメンバーとした当事者団体が設立に至りました。メンバーは定期的に足を運ばれている方で音楽活動を通じてつながりを深めていきました。変化により負担にならないよう団体の設立には職員が関わり、利用の延長に日々の活動を設定できるようにしました。活動拠点もまずはふらっと御茶ノ水から始め、団体の育成をサポートしています。

区内には精神障がい者の当事者会はまだまだ少なく、不足する社会資源の開発を行っていくことも、事業所として求められる役割だと感じています。

利用者数
522名

前年比
99名増



次年度に向けて

ちよだんごカフェが麴町地区にできたことで、御茶ノ水地区から範囲を広げて、引きこもりの方も含め、精神障がいのある方との接点を増やし積極的な関わりを求められるようになったため安心できる居場所づくりを行っていきます。

また、ふらっと御茶ノ水の登録者を増やしていけるよう内部の連携も強めて、ニーズがある人とつながっていくことを進めます。同時にプログラムの充実も図り、スモールステップで活動の幅を増やしていきます。



4 日中一時



土曜日プログラムで充実感を届ける

スマイルちよだにおいて、月1回の土曜日プログラムを新たに導入し、外出や調理、お祭りなどを実施しました。平日の活動時間は送迎との兼ね合いがあり、活動の幅も時間的制約がありました。しかし、土曜日のプログラムでは、ご家族、ヘルパーのサポートも活用しながらご自身で参加いただくため、十分な活動時間の中「外出が楽しかった」など充実感を得られた声をいただきました。

参加者によっては、職員が対応できる数の制限があるため、どのようにニーズに応えていくかは今後も検討していきます。

スマイルちよだ
レスパイト
利用者数

1,768名

前年比

45名増



次年度に向けて

現在は実質的に稼働していないタイムケア（障がい児を対象に、土日祝日や学校の長期休暇などで時間単位での介護サービスの提供）については、土日の職員体制が鍵になるため、内部の受け入れ態勢を確認していきます。

同時に地域の中のニーズの把握を進めるため、積極的な広報を行い、求める人のところまで情報が届けられるようにしていきます。



5 グループ
ホーム



第三者からも評価される質の高い支援

今年度、東京都福祉サービス第三者評価を受審し、以下のことで「特に良いと思う点」としての評価を受けました！

- 支援マニュアルの充実により、夜勤等のシフト勤務でも同一のサービスを提供できている
- 個別支援計画に基づく支援内容と結果を記録し、その結果を踏まえて計画を更新するサイクルがある
- 言葉で意思表示が難しい利用者の方にも意思決定支援に努め、希望に添った主体的な生活を支援している

特に、支援マニュアルについては、派遣職員や経験年数が浅い方でもわかりやすいものとなるように視覚的な情報も多く含んで作成をしました。

利用率

100%

前年比

同率



次年度に向けて

第三者評価では良い評価と同時に「さらなる改善が望まれる点」をいただいています。その中には、温かみのある食事内容から豊かな食生活を提供することが挙げられています。

そのため、3階のキッチンを調理場に建て替え、施設内で調理し提供できる形にするなど、具体的な検討を進めていきます。





過去から学び、 誰もが学びをアップデートする研修を

安心感をもって継続してご利用いただくには支援の質の向上が欠かせません。そのため、今年度は内部研修を同一内容で複数回実施し、職員誰もが学ぶ機会を確保しました。

研修内容は、施設内で発生したヒヤリハットやインシデントについて、まとめた報告を基に優先度が高く頻発している事例をテーマに組み立てていきました。方法は担当職員が持ち回りで、対面で行い、その場でも疑問を解消できることを目指して、より現場に即した学び合いをしました。



次年度に向けて

2024年、秋ごろに食事提供方法の変更を予定しています。食事提供の環境整備を進め、出来立ての食事を提供できることで、食生活の豊かさを追求していきます。

利用者の方には安全においしく食事を召し上がっていただき、満足感を得られるように努めます。



千代田区の銭湯にえみふるの作品が登場！

生活介護では個人で作品を作る創作活動と、テーマを決めて皆で一つの作品を作り上げる作業療法の時間を設け、利用者の方に合わせて活動しています。今年度は、作業療法の時間に作成した「ゆっぼくん（東京都浴場組合公式キャラクター）」を千代田区神田の銭湯「稲荷湯」にて飾っていただきました。制作前に稲荷湯様とも制作サイズや著作権の確認などを経て、3か月程度の期間を経て作り上げました。作品を作ることの意義はもちろん、作品を介した地域との交流機会を大切に、積極的に取り組みました。



次年度に向けて

活動に主体的に参加し楽しみを広げていけるように、利用者の方一人ひとりのニーズに合わせて、サークル活動を実施していきます。活動は、希望に沿って少人数でグループを組みながら外出での活動を増やそうと考えています。

そして、社会の中で好きなこと、強みを生かした活動ができることを大切にして、社会参加の機会を広げていきます。



8 基幹型 相談支援



基幹型相談支援を担う 限られた事業所としての役割

年々多様化、複雑化する相談に応えるには日頃からニーズをつかみ、関係各所と共に、地域包括支援を展開することを心掛けてきました。今年度は、協働を通して関係機関からの認知が進み、信頼が高まったことで、新規に相談を受けたケースが増えました。

また、特定相談支援事業所を主な対象に実施している相談支援連絡会を、基幹相談を受ける他の事業所と共同で企画・実施しました。その中では事例の提供、検討が好評で、例年と比べ多くの出席がありました。今後も連絡会の運営の中で地域課題の共通理解を進め、横のつながりを広げ続けていきます。

相談件数
426 件

前年比
149 件増



次年度に向けて

えみふるには困りごとに対し、その方にあった支援やコミュニティまで適切につなげられる実績と関係機関との連携体制があります。ちよだんごカフェは住民が集える場でもあり、新たな交流人口の中には新たなニーズがあると考えます。そのため、地区の民生委員や区民とも関係づくりを進め、基幹相談の周知・浸透を図っていきます。



9 特定相談 (計画相談)



断らない相談支援であり続けるために

区内の特定相談における一番の受け皿として、今年度は31件の新規利用者を受け入れることができ、相談件数の全体数の増加にもつながりました。しかし、相談員一人当たり40件程度担当しており、相談を受けられる上限に達し始める中、断らずに相談を受けるにはどうしたらよいかと思い悩む1年でもありました。

そのため、ケースを多角的に検討し、基幹型相談支援事業で対応することや相談支援連絡会で相談受付状況を共有し、区全体で利用者を支える体制をしき、一件でも多くの困りごとに応えました。

契約件数

191 件

前年比
20 件増



次年度に向けて

区内の相談支援事業所数は限られるため、基幹型相談支援事業と連携した受け入れ体制を継続することで、新規の受け入れにも対応していきます。体制整備と同時に、その方の特性や思いを受けて専門的アプローチをしていくには、相談員の人材確保と育成をセットにして相談を受けられる職員を増やし、相談員一人にかかる負荷を分散させていくことも目指します。





活動の参加者、 購入者が増えて広がる認知度

今年度は猛暑ではあったものの活動日数を増やし、ボランティアも延べ67名の方に参加いただき、活動できました。中には、日曜青年教室のメンバーの体験参加もあるなど、着実に活動への認知度が上がってきています。昨年、販売を開始した蜂蜜「和花（のどか）」もえみふる内、イベントなどで年間を通して146個を売り上げるなど、販路を広げており、中にはリピーターとなり「贈答に」など買っていただくこともありました。今後も養蜂活動の様子や、「和花」の美味しさを知ってもらい活動への関心を喚起していきます。

えみふるでの
蜂蜜販売数

146 個

NEW

次年度に向けて

「和花」から養蜂活動を知っていただけるよう、まずは手に取っていただける、美味しさに触れていただける場をつくり、関心を寄せてもらうことを続けていきます。そのため、「和花」をつかったメニュー開発し紹介する中で購入者と交流したり、ちよだんごカフェで販売するなど取扱店舗を増やしたりすることを検討していきます。



企業の強みを引き出し、つながる連携強化

前年度からも引き続き、関係を維持、連携を強化できたことで、アート、アダプテッド・スポーツ、講座など様々な面で企業の力を借りながら活動の充実、機会の提供が図れました。連携の中で意識するのは、えみふると企業双方のニーズやそれぞれの強みでつながれる連携にすることです。えみふるでは、ボランティアや寄付にとどまらず、講座の実績も多数あることで、企業の強みからアイデアを提供して、共に企画することができます。そのため、単年で終わらず「翌年も！」と声を掛け合える関係ができ始めています。

連携数

9 団体

前年比
1 団体増



次年度に向けて

さらなるつながりの維持のため、細やかな連絡調整や、双方のニーズの対話を重ねて、互いの理解を深めていきます。思いに触れた講座やイベント運営となることで、かかわった企業にとっても地域福祉を考えてもらうきっかけにしていきたいと考えます。企業の新たな開拓においては、自らの強み、ノウハウを伝えながらつながりを開拓する動きを継続します。





合同実施で 学生と利用者の方の地域交流を活発に

区内に大学が多いという特性を活かし、実践の場や集客の面で課題を感じていた大学のニーズをつかんだ活動ができました。ゼミやサークルの地域に向いた活動で集客に課題を抱えていた大学2校と地域の団体で合同体験会を共同で企画し、実施できました。

えみふるでは逆に施設外での活動場所を欲しており、大学の施設を使用することで、利用者の方が地域に出ていく機会を作ることができ、双方にとってもメリットの大きな会となりました。今後も互いの力を利用しながら、交流の輪を広げていきます。



次年度に向けて

規模を拡大している納涼祭では、多くのボランティアの参加を求めており、交流を進める大学生や実習から関わりを持った方にボランティア参加を積極的に勧めていきます。

また、学生の活躍の場として、運営に入ってもらいながら、職員とは違った目線で祭りを盛り上げる企画をコーディネーションすることも行っていきます。



誰もが身近に楽しめる スポーツにするきっかけづくり

上智大学や大妻女子大学と連携を継続している中で、誰もが親しみやすいスポーツを体験することのできる機会を作りました。エスコートダンスやウォーキングサッカーを広める学生との合同体験会やポッチャを通じた学生との交流会などにより、身近にスポーツを楽しめることを意識して実施しました。

同時に、「ちよだコミュニティラボライブ！2024」でも活動者として誰もが楽しめるポッチャのトークテーマを挙げて、地域の方と議論するなど、考えるきっかけづくりも積極的に行いました。



次年度に向けて

初めてのことに触れられる機会づくりとして、ちよだんごカフェの場所を利用したポッチャイベントを構想中です。

触れて、実際に体を動かしてこそわかる楽しさや、周りの人とスポーツを介して親しめる面白さをどなたにも感じていただけるよう、どのようにそのような空間をつくれるかに挑戦していきます。



14 人材育成



福祉のプロが姿勢を伝えて、仕事がわかる

昨年に比べ、受け入れ人数は社会福祉士実習が2名増え、看護実習の受け入れも広がり全体的に増加しました。中でも、社会福祉士実習はえみふるの取り組みや職員の働きも伝えられる機会であり、今後も受け入れ、その後の人材確保を進めます。また、実習からボランティアにつながるなど接点を持ち続けられることで、活動が充実しました。

同時に、看護実習は地域で暮らす利用者の方の姿を関わりから学ぶ機会となり、学校のニーズの高まりも感じます。そのため、継続した受け入れ、学校との関係強化も図ります。

実習生等
受け入れ人数

53名

前年比
12名増



次年度に向けて

障がい分野の専門性を実習生に伝え続けると同時に「地域福祉の担い手」にもなってもらえるように、共に活動を創り出す魅力や、その関わりの面白さを体験的に理解してもらうことで、広い意味での福祉人材の育成を狙います。

そのためには受け入れ体制の見直しをして、1日当たり3名の実習生を受け入れられる職員体制にしていきます。



15 ボランティア



ボランティアの方と生み出す

多種多様な交流

納涼祭では1日31名のボランティアを受け入れ、これは過去最大の受け入れとなりました。これはブースの多くを参加団体が企画し運営する形を取ったことで、規模を拡大して開催したことで実現しました。普段の講座やイベント実施からつながった方から団体での協力や、実習をきっかけに学生のサークルの参加など、様々な接点から企画が生まれました。

ボランティアの方の力を活用し、アイデアを出し合い得意分野を活かした企画ができたことで、地域の方と交流する多様な機会をつくれたことも成果でした。

ボランティア
受け入れ人数

327名

前年比
32名増



次年度に向けて

顔なじみのボランティアの方が増えていくことで利用者の方の安心感を提供していきたいと考えます。そのため培ったノウハウを蓄積し、定期的で持続可能な関わりや活動機会を提供していきます。

それには、趣旨・目的を伝え、施設内、利用者の方を見ていただき、互いの希望や思いを丁寧にすり合わせて、「やりたい」という思いの受け皿になる役割を担っていきます。





新たな企業の発掘により、 2点の作品が商品化

昨年度からの企業の他に、さらに1社と商品化を進め、利用者の方のアート作品がプリントされた2点の商品を発売することができました。2名の利用者の方の作品がそれぞれ商品になり、直接契約を結んでいることからその収益は利用者の方に入っています。作品作りから関わっていただいたことで、利用者の方の作品づくりの姿勢や過程を知っていただき、丁寧な商品づくりを進めていただきました。

今回の企業とはInstagramから声をかけていただいたことで連携でき、改めて日常の発信の大切さに気づかされました。

作品の商品化
5種類
前年比
2種類増

次年度に向けて

現在商品は施設内でも販売しています。来年度は、ちよだんごカフェでも販売できるように、店舗の整備を進めていきます。また、商品として手に取っていただく他に、障がい者アートをじっくりと味わっていただけるような機会をつくり発信力を強めていきます。そのため、作品展示など日常からアートに触れられるちよだんごカフェのギャラリーの活用を検討していきます。



普段から地域との防災ネットワークを紡ぐ

千代田区社協が主催するちよだモデルネットワーク（CMN）へ参画し、平常時から区内の企業、学校（学生含む）、福祉施設、各町会が顔見知りになり協働体制を築くことを進めました。学習会にも可能な限り参加し、情報交換を活発に行いました。

その中で区民とも接することで、どこに困難さ、不安を抱えているか、ニーズを発掘でき、住む・働く場所へ関心を寄せている姿を知れたことで、情報発信・提供の必要性を感じました。最新情報を学べる事例紹介もあり、施設の防災機能の見直しにも役立ちました。

ちよだモデル
ネットワーク
学習会参加
3回
NEW

次年度に向けて

次年度は災害発生時に備えた施設づくりとして、福祉避難所開設までの実地訓練を予定しています。そのため受け入れマニュアルを施設の構造に合わせて精緻化したり、実際に動いて見えた課題から、より具体的に見直したりしていきます。また、CMN等の学習会や活動から、千代田区に関わる人々が相互に助け合えるような関係づくりを進め、さらに地域の災害対策に取り組んでいきます。



地域共生社会

の
実現に向けて

ちよだんごカフェが

始動

「地域の方々が集い、利用者の方の地域での居場所や、働ける場所を作りたい」という思いを出発点に、2024年4月に「ちよだんごカフェ」が麹町にオープンしました。今回は、地域共生社会の実現に向けた、新たな挑戦をご紹介します。



CHIYODANGO
ちよだんご
CAFE



地域密着型のカフェで 見つける、見つかる

3つの「ミツ」である

「密集・密接・親密」をキーワードに、意欲的に交流を生み出す工夫としてカフェ、アートギャラリー、ポッチャなどアダプテッド・スポーツに親しむ場など多様な機能を持たせました。

団子の串のように 人・地域・社会をひとつなぎに

「人・地域・社会」が一本の串でつながることを願いとして込めて串でつながる団子のイメージがわき、「ちよだ」と「だんご」の言葉の重なりから「ちよだんごカフェ」と命名しました。

これからたくさんの方に団子と共にくつろいだ時間を過ごしていただき、地域における認知度を高め、ファンづくりを進めていきます。ぜひ一度足を運んでみてください。

∥ カフェ情報はこちらから ∥

〒102-0093 東京都千代田区平河町2丁目3-10

ライオンズマンション平河町110 (1階)

TEL : 070-5570-6406

営業時間 : 13:00 ~ 18:00 (LO17:30)

営業日 : 月~金曜日 (祝日休み)



講習会・公開講座

作業療法（定員：14名）

理学療法（定員：1日当たり6名）

言語療法（定員：1日当たり4名）

地域生活リハビリ・高次脳機能障害者リハビリ（定員：5名）

社会適応支援・就労をしている障害者向け（定員：10名）

療浴サービス（自立浴、半自立浴、機械浴）

団体利用（会場の貸出）

ぷらっと御茶ノ水（サロンドうちよだ）・心の病を抱えた方向けのサービス

日中一時支援事業（スマイルちよだ、レスパイト、タイムケア）

グループホームふぁみりあ（定員：4名）

ショートステイふぁみりあ（定員：1日当たり4名）

生活介護事業（定員：20名）

基幹型相談支援事業

特定相談支援事業（計画相談）

社会福祉法人 武蔵野会

千代田区立障害者福祉センターえみふる

発行：令和6（2024）年10月

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2丁目5

TEL：03-3291-0600 FAX：03-3291-0608

Email：emifuru@chime.ocn.ne.jp

公式サイト



<https://emifuru.com/>

X (旧 Twitter)



Instagram



Facebook

